矢作川流域圏懇談会通信

R1 流域連携 vol.1

発　行　日：令和元年７月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆流域圏担い手づくり事例集交流会 2019 を開催しました！

矢作川流域では、水源の森づくりを担う山村で過疎化と少子高齢化が進んでいます。その解決の糸口として、矢作川流域圏懇談会山部会は、2013 年度から４年間かけ、矢作川流域で主として中山間地振興に携わる団体（一部川や海の活動団体を含む）の取材記録をまとめ、流域内の多様な主体によるネットワークづくりを支援する「山村再生担い手づくり事例集」を４冊発行しました。

2017 年度から川、海部会とともに取材先として川・海の環境保全や水辺空間の再生・利活用に携わる団体を増やし、２ 冊の「流域圏担い手づくり事例集」を発行しました。これらの事例集づくりをもとに人のつながりを深め、広めることをめざして、交流会を開催しました。

日　　時：令和元年６月 22 日（土）　14:00～17:30
場　　所：岡崎市石原町　高木製作所　研修所
参加人数：30 名（事務局を含む）

◆交流会の活動報告と今年度の方針について

1．活動報告

■一般社団法人奏林舎　　唐澤晋平さん（代表理事）

【流域圏担い手づくり事例集Ⅱ　P47～P51　掲載】

奏林舎は、「地域に根差した豊かな森づくりを通じて、山里と流域全体の持続的発展に貢献する」ことを目的に、岡崎市額田地域で民有林の間伐や森林整備等を行っています。山での活動を通して、山を所有する山主から社会に木材が出回るまでの流れの中で、山主への還元が少ないことに違和感を持ち始めました。そこで、山主にも利益を還元する「地域材のフェアトレーディング」の仕組みづくりを目指して、2017年から社会実験に取り組んできました。実験は、枝打ちされたヒノキから50坪程度の無節床板材を中心に製造販売を行い、製品の取れ高に応じた出材者への清算、また出材地の山林情報の調査・マッピング等を行うものです。この成果として、額田地区の優良な木材を使い、地元の製材所・工務店と連携して作られた高品質な内装材「リタウッド」が完成しました。リタウッドの生産過程では、全体の調整を行うコーディネーターが仲介に入ることで、関係者が納得できる価格を設定できる仕組みとなっています。同時に、山主自身も木材流通や価格決定の仕組みを学ぶことで、より高く木材を売る方法について一緒に考える場となっています。

■岡崎市ぬかたブランド協議会　　眞木宏哉さん（岡崎森林組合）

【流域圏担い手づくり事例集Ⅱ　P63～P65　掲載】

岡崎市ぬかたブランド協議会は、額田地域において、所得の向上や雇用の増大に向け、地域内の農林水産業等の地域資源の潜在的な力を活用し、商品化や販売促進等の取組みを推進しています。活動は以下の部会により行われています。

- かき氷部会：地域の特色を活かしたシロップと額田の名水「神水（かんずい）」を使用したかき氷を提供する「かき氷街道」を企画。
- 木材部会：木質バイオマス等の地域資源調査や森づかい推進運動（簡易足湯キットの試作や足湯体験イベントの開催）の実施。
- 薬草部会：ヨモギ試験栽培やヨモギ湯及び茶のサンプル試作の実施。
- 鮎部会：天然鮎漁獲実績調査や真空包装及び-60℃保存試験の実施。
- 自然薯部会：自然薯の商品開発、試作品の販売やPR方法の検討。
- 山菜部会：統一ブランドマークの商品への貼り付け等によるPR。
- 販売戦略部会：イベント参加や地域を紹介するパンフレットの検討。
- その他：JAあいち三河、愛知学泉大学とのコラボにより、ジビエと豚肉等の食べ比べクイズやアンケートを実施。また、統一ブランドマークのデザインの作成を行い、活動の普及に努める。

■MAKITA BOYS　　【事務局からの報告】中田慎さん

MAKITA BOYSは岡崎市内を流れる乙川で、殿橋の欄干に出現した野外カフェや殿橋テラスの撤去を行っています。団体名は、撤去の際に用いる電動工具メーカー名から派生したものです。メンバーは、「乙川でかわまちづくり等をプロジェクトしている人」と「殿橋テラスでお店を出すなどの川を利用している人」により結成されています。川を利用している以上、増水や河川の氾濫等の危険が生じる可能性が高い場合、施設の撤去を行わなくてはなりません。撤去は、誰にとってもうれしくない作業ですが、MAKITA BOYSのメンバーはこの作業でさえ楽しんでしまおうという姿勢で取り組んでいます。2019年2月に東京都渋谷区で実施されたMIZUBERING FORUM2019では、彼らの活動が評価され、オーディエンス賞を受賞しました。メンバーの一人である天野裕さんに発表の依頼をしていましたが、忙しいとのことで、今回は事務局からの報告となりました。

【天野さんからのコメント（活動紹介）】

おとがワ！ンダーランドのWEBサイトをリニューアルしましたので、お時間があるときにご覧ください。乙川の日常の姿を紹介して、日常の利用を啓発したいと考えています。

■流域圏の繋がりから未来へ　～佐久島アートプラン21・オフィスマッチングモウルの事例をはじめとして～

近藤朗さん（愛知・川の会）

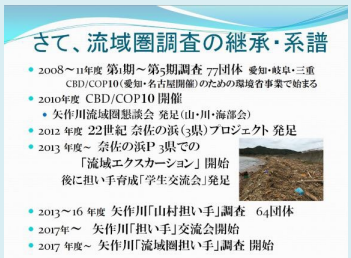
【流域圏担い手づくり事例集Ⅱ　P59～P62　掲載】

有限会社オフィス・マッチングモールは、現代美術に関するコーディネートとプランニングを行う事務所として、1999年に岡崎市で設立されました。現在、佐久島で実施されている「三河・佐久島アートプラン21」事業を受託し、島の中にアートを配置すると同時に、アートによる島の魅力の発信に取り組んでいます。この取組みの成果として、2018年にはSNS映えする場所として佐久島が若い女性を中心に注目されました。また、佐久島への渡船利用者数が増え、渡船の便数が増加するなど大きな効果を生んでいます。今後の目標としては、「もっと島本来の自然、魅力を歩いてまわる島を目指す」ことを考えています。目標の実現に向け、佐久島の自然や地域資源に詳しい人を探す中で、矢作川流域圏懇談会のメンバーとのコラボの話があがりました。そこで、2019年1月から6月にかけて、川部会の近藤さんや海部会の髙橋さんを中心として佐久島に渡り現地視察や探鳥会を行うとともに、新たな取組みの可能性について協議を進めています。流域圏担い手づくり事例集の作成活動から生まれた新たなつながり・取組みの誕生に期待が高まっています。

2. 事例集の成果や今後の方向性に関する意見交換

●流域圏担い手づくり事例集の成果について

今回の事例集交流会で紹介されたオフィス・マッチングモウルの活動のように、取材活動を通したつながりが少しずつ拡大しています。また、インターネット上に公開された活動内容を見て連絡をもらったという意見もあり、「流域内フェアトレードと、食・エネルギー・水・医療・教育・安心安全の自治の促進」という目標に向けて少しずつ成果が表れ始めていることを確認しました。



近藤さんの発表スライドより

●今年度の流域圏担い手づくり事例集の活動について

今年度の活動としては、流域圏（山村再生）担い手づくり事例集及び矢作川流域圏懇談会のこれまでの活動を振り返ることのできる冊子の作成を行います。冊子の作成にあたり、編集委員会を立ち上げました。編集委員会を中心として地域部会間で連携を取り、矢作川流域圏懇談会の中で取材を行うことにより、これまでの矢作川流域圏懇談会の活動についてまとめていく方針としています。また、過去の活動については参加されなくなった方への取材も検討していきたいと考えています。　　【編集委員会：浜口さん（とりまとめ）、洲崎さん（山部会）、近藤さん（川部会）、高橋さん（海部会）】

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。